

竹取物語新聞

第 127 号 2016 年 10 月号
発行：NPO 法人森林ボランティア
竹 取 物 語 の 会

楠葉小学校ヒノキ間伐体験（9月30日）

秋晴れとなった9月末日、樟葉小5年児童114名がヒノキの間伐体験に来場した。5年生は最年少受入れであり、人数もこれまでに倍する多さである。子供たちはまだ力も弱く、ノコギリ作業には戸惑っていたが、それでも枝切りのときには、かなりうまくなっており、倒木時の迫力や皮を剥いだ木肌のきれいさとともに、何かを感じてくれたのではと思う。参

加会員は、押してくる時間と群がる子供たちの中で、準備に始まり、口受・追口切、伐倒、枝切り、玉切り、皮剥き、後処理とフル回転で指導され、本当におつかれさまでした。何とか予定の作業を体験してもらうことができ、何よりもケガなく終えたのはよかった。受入れ数と所要時間は、もう少し余裕が必要であり、今後の課題となった。（西本敏明）

山田池公園フェスティバル

10月22日（土）、2日前の夏日より一転肌寒い曇天の下、10時よりフェスティバルが開催されました。

芝生広場を囲んでステージとボランティア団体などのブース十数個があり、ステージと広場では歌やダンスが繰り広げられていました。当ブースはテント内の三方をクラフトコーナー、テントの外奥を竹工作のスペースとし、ブース横にパネルを掲示し、竹取物語の会の活動

紹介をしました。クラフトは木、竹、実、種を使い、親子連れやご年配の方が、トンボ、花、ウリ坊、カエル等オンリーワンの作品を作られていました。竹工作は、持ち手付きの一輪挿しを作りたい方が多く、私は一輪挿しの指導は初めてなので不安でしたが、どうにか上手くいき一安心しました。参加した12名の全会員がフル回転の大盛況でした。（岩本次男）

里山保全講座開講 10月16日（日）

今年で第11回目を迎える「里山保全講座」が始まり、受講生3名で開講。今回は開講に合わせて各生涯学習センターにチラシを配布し、またHPに掲載し募集を募った。午前中は、自己紹介、「森林ボランティア活動について」説明。午後からは、「日本森林ボランティア協会」藤村幸平氏を講師に招き「安全な保全活動」を

開催、近隣の4団体及び公園みどり推進室より2名が参加し総勢33名が受講。講師の説明（「安全な作業のために」）に参加者一同メモを取りながら聞き入った。今回の安全講習で日常作業の見直しのきっかけになれば幸いです。（岡春司）

枚方の里山・収穫の秋穂谷に参画（10月9日（日））

当日の夜中～明け方は、激しい雨が降り続いたが、みんなの日頃の行いが良いのか、夜が明けると晴れ。来訪者の出足も良く、徐々に人が増えて、例年通りの賑わいでした。竹取物語の会のテントでも、竹細工、ヒノキバー、竹炭や竹酢液などのお試し品の格安提供、竹の器や木

端のブローチづくりの無料体験など、多くの方が喜んでくれました。来訪者と会話を楽しみながら、製造工程や製品の良さ、使い方を説明して、こちらの気持ちがじると、ほとんどの人が、試しに買って行こうかな…」となるようで、竹の笛や竹酢液などは完売でした。外国人も数人

は、購入してくれたように思います。特に、竹酢液では、「長年の皮膚病がやっと治った。追加注文したい。」といったお礼も頂いたようです。また、会員募集もしたら、たちまち、新規会員を一人ゲット。すがすがしい1日になり

ました。来年も、さらに改良を重ねて、みんなで頑張り、より多くの人々と交流をしたいなど感じました。楽しい1日でした。深謝

(勝原芳博)

市民キャンプフェスティバル 10月10日(祝)

枚方市野外活動センター主催の秋のイベントで今年はクラフト体験に付随して企画した「蹄鉄投げコンテスト」は、竹トンボなどの商品目当てもあつて終日盛況であった。クラフト作り、お箸づくり、竹伐採体験、等に親子連れ

で賑わい竹取のブースには約100名強の来場者があつた。スタッフ15名が休憩も忘れほど盛況であった。イベント最後のヒノキ丸太切り大会は10チームが参加しヒノキ丸太切りを競い合いイベントを盛り上げた。(岡春司)